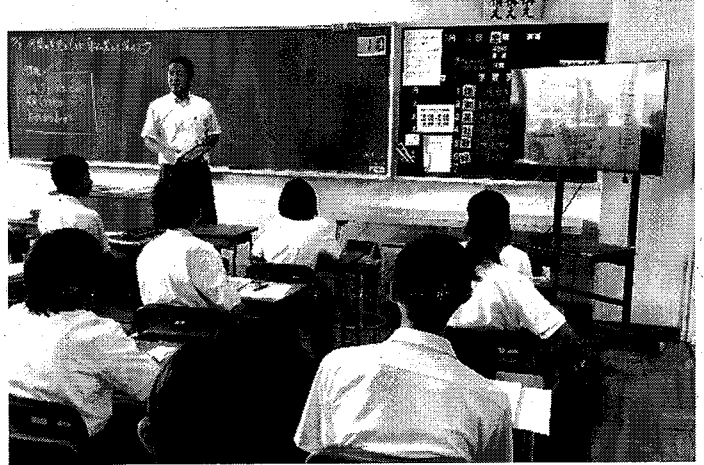


1 研究主題

『 無線 ICT 機器を活用した授業開発 ～効果的な資料提示を通して～ 』

2 研究の目的

社会科は、資料を読み取ったり作図したりという活動が多い教科である。これまでは、資料集や別紙資料を配布して学習を行っていたが、効率的とはいえなかった。そこで、無線 ICT を活用して効果的な資料の提示方法を模索することとした。

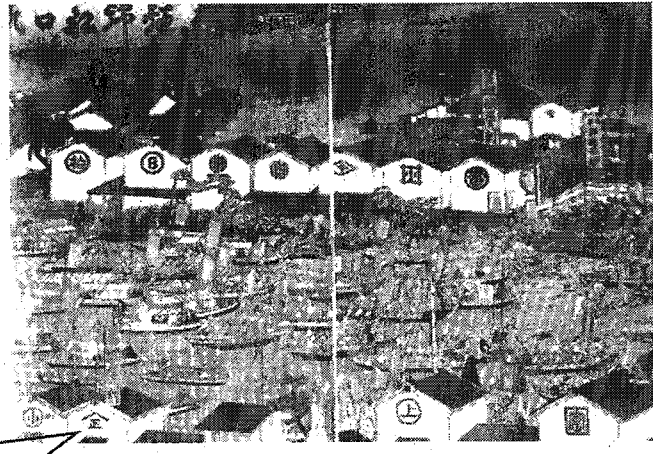
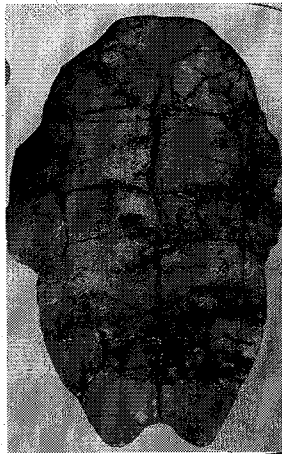


3 研修の成果

様々な活用方法を試してみたが、特に効果的だと感じた活用方法をいくつか紹介する。

(1) 前時の振り返り

授業始めに前時の学習を振り返るが、これまでは口頭で問題を出す形の小テストをおこなっていた。しかし、特に低位の生徒は言葉では学習内容が想起できず、効果的とはいえなかった。現在は、無線 ICT によって前時の資料が提示できるため、生徒も復習しやすいようである。



このように資料をフラッシュカード的に示すことで小テストが行える。
理解度も高まった。

(2) 作図方法や読み取り方の例示

作図においては、書き込み方をリアルタイムで示すことで、一斉でも十分に指導することができる。また、読み取りにおいても、注目する部分をその場で示すと、ほとんどの生徒が読み取った内容を書けるようになった。どちらも、特に低位の生徒に有効だと感じる。

今日のめあて

今後力を入れていくべき発電方法はどれだろう？

私の考え	仲間の考え	仲間の考え	仲間の考え
既設した設備 水力、軽油エンジン			
増やすべき 原子力			
減らすべき 再生可能			
理由 既設設備はコストが安いから	理由	理由	理由

『発電方法のベストミックスを考えよう』

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100%

再生可能

【この案を自己評価すると】

安定供給 ○

環境保全 ○

経済性 ○

安全確保 ○

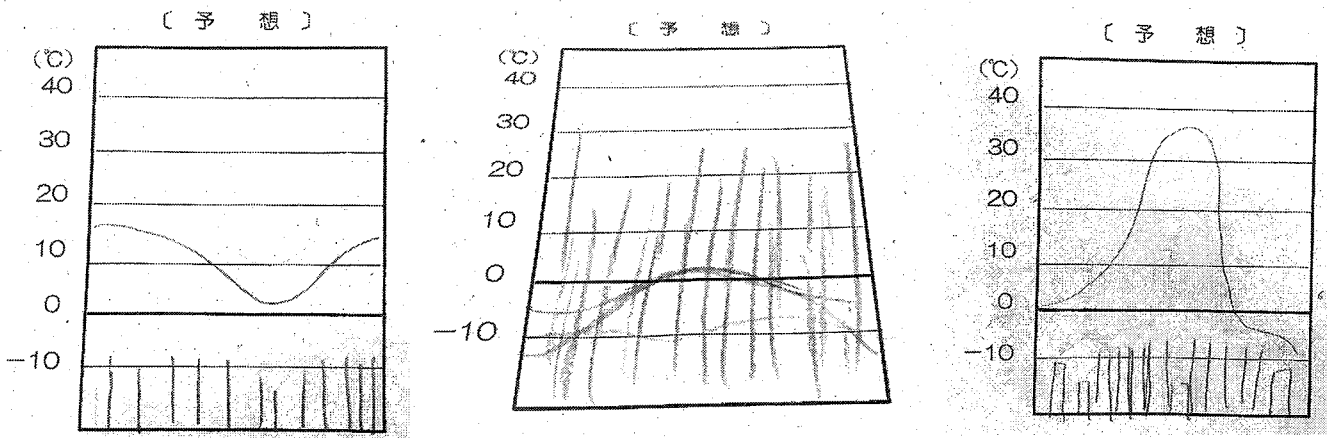
【この案を実現するために必要なこと】

【全国の市町村に風力発電所の建設を義務づける】

ワークシートにその場で直接記入例を示すことで、活動内容が理解できない生徒への支援が一律にできる。

(3) 生徒の意見の共有

生徒の意見をもとに更に考えを深めるといふ活動において、聞き流してしまった生徒にとっては学びが途切れる。そこで、リアルタイムでワークシートの意見を映し出すことで、画面を見ながら意見を聞くことができるようにした。結果、生徒にとって以前よりも言いたいことがよく理解できるようになったようである。また、映し出されることに喜びを感じ、意欲的に取り組む生徒が増えたことも、大きな効果である。



これらは、雨温図を予想する活動での生徒のワークシートを映したもの。視覚的に示しながら説明させると、聞いている生徒も理解しやすい。

4 おわりに

無線 ICT を様々な方法で活用して一番感じたことは、教師の活動の幅が広がるということである。教師が立ち位置をしばられることなく、リアルタイムで生徒のプリントが映し出せるので、互いの学び合いが促進できるように感じる。また、口頭での指示のみでなく、視覚的に指示できるため、個別の支援をしなければならない場面が大幅に減った。空間的にも時間的にも制約を受けることが減ったため、生徒が思考する時間を十分に確保できるようになった。今後は、授業のみならず生徒の集会などでも活用し、様々な可能性を探っていきたいと考えている。